

大茅地区 地域づくり懇談会 議事録

- 1 日 時 平成29年10月17日(火) 19:00～20:15
- 2 会 場 大茅地区公民館
- 3 出席者 地元出席者 26名
市側出席者 18名
深澤市長、羽場副市長、河井総務部長、田中中核市推進局長、乾防災調整監、
田中企画推進部長、久野地域振興局長、国森農林水産部長、綱田都市整備部
長、山根観光戦略課長、渡邊秘書課長
＜国府町総合支所＞安本支所長、小林副支所長(司会)、井上市民福祉課長、
前田産業建設課長
＜事務局＞宮崎協働推進課課長補佐、有本協働推進課主事、北村協働推進課
主事

4 地域の重要課題について

1 交通網の整備について(主要地方道岩美八東線の早期改良整備)

＜地域課題＞

主要地方道岩美八東線は、岩美町にある道の駅「きなんせ岩美」から国府町東部へ観光バス等の乗り入れを確保することが可能な、観光客誘致にとって重要な路線である。しかし現状では、観光バスは急勾配やヘアピンカーブ等を避け、鳥取市街地を經由している。

当路線は「緊急輸送道路ネットワーク」における第2次緊急輸送道路となっており、災害時等の交通路の確保においても重要な路線であることから、岩美町小田～大坂の区間について、曲線部と急勾配部の早期改良整備を要望する。

なお、前回の地域づくり懇談会で同様の要望をした際、県の回答は「今後、大型バス等の利用状況等を見ながら、必要に応じて検討する」とのことであったが、検討はなされたか。

＜担当部局の所見等＞

【都市整備部】

現在の検討状況について道路管理者である鳥取県土整備事務所へ確認したところ、下記のとおり回答がありました。

(鳥取県回答)

岩美町小田～大坂までの大型バス等の走行性について、平成30年度に調査を実施することについて検討中です。

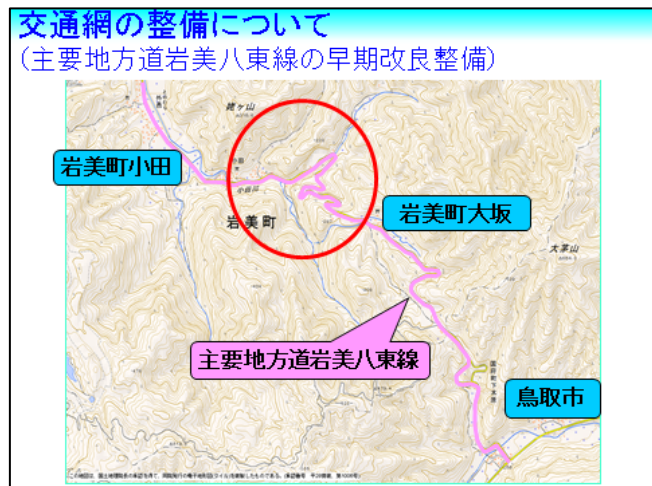
本市としましては、引き続き鳥取県に対し要望してまいります。

(都市整備部長)

この件については、前回の地域づくり懇談会でも同様のご要望をいただきました。

主要地方道岩美八東線は、災害時の第2次緊急輸送道路としての位置付けがあり、道路としては幅員5.5mあります。県では、急カーブ部分をかなり拡幅するなど、一定の整備を行われた経過があります。

県に現在の状況を確認したところ、岩美町小田から大坂の間を中心として、大型バス等の走行性について平成30年度に調査を実施することを検討中だと伺っています。本市としては引き続き、県に改善を要望していきたいと考えています。



2 雨滝観光資源の活用について

<地域課題>

①雨滝第1駐車場の舗装整備

近年、観光バスやマイカーで雨滝を訪れる観光客が増加しているように見受けられるので、早急な駐車場の整備が必要である。雨滝第1駐車場の舗装については、平成25年度と27年度の地域づくり懇談会でも要望しており、早急に検討願いたい。

②市道雨滝1号線の改良継続

駐車場と道路の境界がコンクリート製のL字側溝となっており、段差があることから車両の乗り入れに支障をきたしている。車高の低い車なら底を打ち損傷する恐れもあることから、出入りしやすいよう擦り付け等の改良をしてほしい。

さらに、雨滝へのアクセス道路である市道雨滝1号線の改良を引き続き要望する。

<担当部局の所見等>

【経済観光部、都市整備部】

①第1駐車場の舗装については、現場の状況や段差の解消などの整備内容、財源状況等を踏まえて検討を進めていきます。

②市道の改良継続につきましては、平成28年度までの期間において、迂回路が確保できる区間での整備を行なってきました。

未整備の区間につきましては、工事期間中の通行止めが不可欠なため、地元や関係者の皆様の合意形成を図りつつ事業を進めたいと考えます。

(観光戦略課長)

第1駐車場の舗装については、現場の状況を確認し、道路と駐車場の段差解消といった整備の内容や、ジオパーク関連の県補助金の活用といった財源の状況等を踏まえながら検

討を進めていきたいと考えています。

(都市整備部長)

市道雨滝1号線については、約350mが未整備です。この路線は、合併前から整備が行われています。合併後も事業を継続し、平成28年度までは、農道等により迂回路がとれる部分を中心に整備を進めてきました。現状は、迂回路がとれない区間が未整備区間として残っています。

市道雨滝1号線は雨滝の観光ルートであり、春の新緑から秋の紅葉まで多くの観光客がお越しになります。そのため、未整備区間について観光客への影響がないように整備を実施しようとすると、工事の時期が限られます。秋の紅葉後は、雪が降り始めます。大茅地区は雪の多い土地柄ですので、冬期は工事そのものが困難です。雪の影響や観光客への影響を考慮すれば、4月から5月といった限られた期間での施工ということにならざるを得ません。引き続き未整備区間の整備に取り組みたいとは考えていますが、場合によってはもっと長い工期をとることも検討しなければいけないかもしれません。

そのようなこともあって、工事の時期や施工方法について地域の皆様や観光関係の皆さんと調整を図りながら、来年度以降、継続して取り組んでいきたいと考えています。

(地元意見)

先月、大茅地区公民館で雨滝の第1駐車場について説明会がありました。私はその場で、「雨滝の存在をどう考えているかは分からないが、それなりにもう少しアイデアのある開発をすべきではないか」、「もう計画は決まっているか」と尋ねましたが、その説明会で渡された資料は計画ではなく案だと言われました。計画はどこまで進んでいるのですか。

(総合支所産業建設課長)

先日の会は、駐車場と市道雨滝1号線の整備について、まずは地元の皆様にどう整備を進めるべきかご意見を伺おうと考えて、開催しました。その際にお渡しした資料は、「こうします」という整備計画ではなく、意見を伺うためのたたき台として作成し、お持ちしたものです。

(深澤市長)

雨滝は、山陰海岸ジオパークの中で河合谷高原と並ぶジオスポットの一つです。県の来年度予算がどうなるかにもよりますが、事業費の1/2を受けられる県の補助金もありますので、これらも活用し、まずは段差解消やフェンスの設置が必要ではないかと市役所内部で話し合っているところです。

アイデアを持って開発すべきではないかとのご意見もいただきました。貴重な観光資源



として今後いかに活用していくのかということは、我々の大きな課題だと考えていますし、鳥取市はもとより、鳥取県東部圏域あるいは山陰東部圏域でも、今後、広域観光ネットワークを形成して観光振興に取り組んでいこうといった話もしているところであり、東部圏域の観光拠点や観光資源等を繋いでいくことも大いに考えていきたいと思っています。

貴重な観光資源である雨滝の活用策について、皆様と一緒にしっかりと取り組んでいきたいと考えていますし、いろいろなアイデアもお聞かせいただければありがたいと思います。

(地元意見)

説明会の後にも少人数の役員が集まって説明を受けましたが、集まった皆さんの中には、雨滝の人だけに関係ある話だという思いがあります。特に雨滝の人間が偏った要求をしているわけではありませんが、ここはこうすべきではないかという気持ちは他の人とは違うと思いますので、ただ単に役員を集めて話をするのではなく、例えば集落まで来て話すなどしてほしいです。雨滝以外の人からはアイデアはなかなか出ないので、まず地元の意見を聞いて、その後、大茅地区としての意見を聞き取りするなど、少し段階を踏んで進めた方がよいのではないかと思います。

(深澤市長)

よく分かりました。これからも皆様と一緒にになり、いろいろ話をさせていただきたいと思います。雨滝は、地域の皆様のみならず鳥取市、また鳥取県東部の貴重な観光資源、財産であると思っています。いかに活用していくか、将来に向かって考えていきたいと思っています。

3 地域おこし協力隊の継続配置について

<地域課題>

地域の活性化に向けては、地域の核となるリーダーの存在が重要となる。

大茅地区では、地域活性化に向けて各種団体が様々なイベントを開催したり、「とっとりふるさと元気塾」などの人材養成事業への参加などを行っているが、さらに地域の核となるリーダー養成の必要性を痛感している。

そのような中で、平成27年11月から地域おこし協力隊員を配置してもらい、イベントの支援や地域活動などの協力をいただきながら地域力の維持、強化に取り組んでいる。現隊員の任期は3年だが、地域の課題である「地域おこし」はまだ道半ばであり、今後も若者の移住定住の促進に向けたお試しハウスなどの設置も検討する必要があることから、引き続き（平成30年11月以降）、地域おこし協力隊の継続配置を要望する。

<担当部局の所見等>

【地域振興局、国府町総合支所】

地域の特産物や伝統工芸品を継承・発展させていくことや、地域活性化、地域課題解決に取り組むなど、地域おこし協力隊の活動は本市にとって大変効果的であると認識しており、今後も必要に応じて受け入れていきたいと考えていますが、全市的なバランスを考慮

すると同一地域、同一業務で継続して配置することは困難と考えています。

なお、地域が一体となって新たな事業の取り組みを進めるにあたって協力隊の導入を希望される場合は、改めてその必要性も含めて検討を進めていきたいと考えますので、ご相談ください。

また、2名の隊員が3年間行ってきた業務、任務については、退任した隊員が任意で定住し引き続き実施したり、地元の団体や業者などが引き継ぐなど、地域において創意工夫され、継続して地域の活性化に取り組んでいただくことが重要だと考えています。

(地域振興局長)

国府町では、平成27年11月から2名の地域おこし協力隊員を受け入れていただいています。地域おこし協力隊は、総務省が平成21年度から全国的に始めた制度です。当初は取り組む自治体も少なかったのですが、今では人数も増加し、平成29年3月末現在、4千名近くの隊員が全国で活躍しています。この制度の目的は、都市部から中山間地域や離島、過疎地域に若者が移り住んで、地域を拠点にした取り組みを行うことで、その地域を活性化させることにあります。概ね1年から3年未満の任期の中で、それぞれの地域の特性に合わせた活動をしていただいています。

鳥取市では、平成26年度の佐治町での取り組みを皮切りに、気高町、鹿野町など鳥取市西部地域にも入っていただいています。現在本市には、国府町の2名を含め、5名の隊員がおられます。これまでに3年の任期が過ぎ、7名の隊員が退任しました。1名は帰りましたが、その他の皆さんは鳥取に残って引き続き活躍されています。起業された方もありますし、それぞれの地域の課題解決のために活動されている方もあります。

本市としては、地域おこし協力隊の取り組みは非常に有効だと考えていますが、全市的なバランスを考慮すると、同一地域に同一業務で継続配置することは適当でないと考えています。ただ一方で、地域が一体となって新たな取り組みを始めるにあたって協力隊の導入を希望されるということであれば、必要性も含め、検討していきたいと考えています。そのようなご相談があれば、本庁地域振興課あるいは総合支所地域振興課にご相談いただきたいと思います。

佐治町では、協力隊員が地域で行った活動を地域の団体が引き継ぎ、継続して活性化策に取り組まれている事例もあります。また、この地域おこし協力隊の取り組みには、地域で活躍した後、その地域に定住していただきたいというもう一つの目的もあります。全国では、6割の方が残って活躍されています。本市としても、定住支援策や起業支援策を設け、地域で頑張っていただけるよう支援を行っているところです。

(地元意見)

同一地域、同一業務での継続配置は困難とのことですが、同一業務でなければ継続して配置されることもあり得るのですか。

(地域振興局長)

地域の中で新たに組みたい事業があり、市役所内でも協議が進んで募集をかけようという話になれば、同一地域であっても募集していきたいと思っています。

(深澤市長)

地域おこし協力隊は国の制度ですが、成功していると言える取り組みではないかと思っています。私自身も、地域おこし協力隊員が活躍してくれているといった話を他の自治体からよく聞きます。本市としても力を入れていきたいと思っていますし、できれば3年の任期が終了された暁には鳥取市に定住していただき、引き続き活躍していただきたいと考えています。

我々としては市全体の中で配置を考えますので、3年が経過した後に引き続き同一業務に取り組んでいただくことはできませんが、大茅地区あるいは国府町で新たなテーマに取り組んでいこうということであれば、協力隊の募集は可能です。

(地元意見)

市としての考え方はよく分かりました。良い制度だと思うので、もう少し多くの協力隊を配置してほしいと思います。地域の活性化は人の問題だと思います。人がどう動くかによって地域が活性化すると思います。特に、若くて意欲のある女性に来てもらうと、地域も活性化するのではないかと思います。

また、現在は地域づくりがテーマになっていると思いますが、地域の核となるような人材の配置を検討してほしいという思いもあります。

(地域振興局長)

リーダー養成ということであれば、本市でも「とっとりふるさと元気塾」を開講し、市長を塾長としてリーダー養成を図っています。

鳥取市の地域おこし協力隊員は男性ばかりですが、近隣の自治体には女性も入って活躍されています。岩美町では民宿を経営されたり、境港市の綿づくりも女性の協力隊員が取り組んでいます。八頭町でも女性が配置され、任期満了後も残って活躍されています。地域のPR写真を撮影して全国に発信する取り組みにおいて女性隊員が活躍しているところもあります。性別を指定して募集するわけにはいきませんが、どのようなテーマで募集するかで違ってくると思います。

どのように協力隊員を募集し、地域と協力隊員がどう協力し合って取り組みを進めていくか、というテーマ設定が非常に難しいと思っています。全国の自治体が様々なテーマに基づいて募集をかけていますので、協力隊員がテーマを選択する時代になっていると思います。

5 市政の課題等についての意見交換（フリートーク）

(地元意見)

自分が雨滝の出身だと言うと、鳥取地域の人に、開発されてない雨滝ですね、何もない雨滝ですねと口々に言われます。

鳥取市役所の玄関に鳥取市の地図があり、さじアストロパークと鹿野往来、雨滝の写真が載っています。傘踊りの背景に滝がある写真ですが、写真と実際の開発の状況を比較して、「開発されていない雨滝」という思いを持たれるのではないかと感じています。先日、

大茅地区公民館で行われた会議でも、観光戦略課の職員に対して、雨滝周辺で観光開発されてない所が他にあるかと尋ねたら、「ない」との回答でした。そして出席していた何人かの人からは、雨滝からは開発に対して何の声も挙がりませんと言われました。

しかし大茅の住民は、大茅小学校で6年間「とどろく雨滝」という校歌を歌い、現在も、滝開きや運動会で「雨滝小唄」を踊っています。市長も滝開きに来られた時に、国府東小学校の児童が踊るのを目の前で見たはずですが、地元は、雨滝に対して特別な想いを持っていますし、小さい時から意識しなくても大きな存在として育ってきたのです。

市長は選挙の時に、「立ち寄り日帰りする観光から、回遊し宿泊する観光へ」と言っていました。そして、政策として新たな観光名所や観光拠点をつくといいましたが、観光名所、観光拠点として雨滝は全く市長の眼中になかったということなのかを確認したいと思います。

(深澤市長)

いろいろ思いをお聞かせいただきました。行政が直接多額の投資をして観光振興等を目的に開発を進めていくことは困難な時代になっていると思います。道路や駐車場の整備を着実に進めたり、観光地としての素晴らしさや魅力を大いにPRするなど、できる範囲のことにしっかりと取り組んでいくべきだと考えています。これらは地道な取り組みですが、精一杯取り組んでいるという思いでいるところです。

雨滝が、全国の「百選の滝」に選ばれるほどの非常に素晴らしい滝であることは、以前から私も思っています。菅滝等もあることから、遊歩道等の整備など様々な取り組みを行っているのですが、それを感じていただけていない部分もあるのかな、とも思います。

貴重な観光資源として今後も整備を行い、大いにPRして生かしていかなければいけないと考えています。遅々として進まないと感じておられるかもしれませんが、しっかり取り組んでいきたいと思っておりますので、ぜひともご理解いただきたいと思っております。

(地元意見)

雨滝地域は、非常に豪雪地帯です。雨滝にしてみると特別に驚くほどの積雪量ではありませんが、今年は2m15cmの降雪がありました。

降雪時に、知り合いから10馬力の除雪機を借りて除雪をしました。これは、鳥取市が貸与している除雪機と同タイプの機械です。2m15cmといえば、大人が立って手を挙げるとその手が隠れる積雪量ですので、10馬力の除雪機では除雪は無理でした。屋根から落ちた雪は3mから4mほど積み上がりますので、地域の中には建築関係に勤める人が個人的にユンボを持って来て、その雪を取り除いた家もありました。

今まで雨滝は小型除雪機の貸与の申し込みをしていなかったのですが、今年申請しましたが、却下されました。どういう理由で却下になったのか分かりません。総合支所に20馬力の除雪機の貸与を要望しましたが、平成24年からは10馬力で統一しているとのことで、全く受け付けてもらえませんでした。そこで、「市長への手紙」で20馬力の除雪機の貸与を要望しましたが、最近の除雪機は性能が上がっていることと予算の問題を理由に挙げ、それに加えて、今回の豪雪によって多くの貸与希望が出ると思うので、20馬力の除雪機を貸与することは難しいとの回答でした。私は20馬力にこだわっているわけではありま

せん。今までは、市が10馬力と20馬力を貸与していたこともあって20馬力という提案をしているだけのことから、例えば15馬力でもよいのです。たしかに予算の問題もあるのは仕方ないと思いますが、予算の問題というのであれば10馬力と20馬力の除雪機を二通り準備しなくても、例えば5馬力、15馬力と、馬力の異なる除雪機を何種類か準備すればよいと思います。また、雨滝集落から8km下の中河原には20馬力の除雪機が貸与されていますが、なぜ雪の少ない所に20馬力が貸与されているのでしょうか。申請した時に予算があれば貸す、というものではないと思います。

鳥取市では300台以上貸与しているとのことですが、地域の場所をよく吟味して貸与してほしいと思います。

また、今回の豪雪時に、「近隣の集落から小型除雪機を借りてよいか」と総合支所に尋ねたら、だめだと言われました。たしかに、保険の問題や故障した時の修理の問題、ガソリンの問題があるので、だめと言われるのも分かります。しかし、今年の豪雪は災害対策として何かしなくては、という思いがありました。そんな時に杓子定規な意見だったので、そんなことでよいのかと疑問を感じました。

オペレーターの問題もあります。雨滝集落が今まで貸与を申請しなかったのも、オペレーターの問題があるからです。

もう少し臨機応変に対応し、山間部には相応の除雪機を考えてほしいと思います。

(都市整備部長)

除雪機の貸与は、市が直接全ての除雪を行うことが困難な状況の中、市民の皆様との協働の取り組みとして小型除雪機を貸与し、地域による除雪をお願いしているものです。

当初は20馬力の機械で貸与をスタートしましたが、市内全域で多くの貸与要望があり、20馬力から10馬力に機械の能力を下げること、より多くの地域に貸与しようと判断し、現在に至っています。本年1月と2月の大雪を受け、3月に市内各町内会に小型除雪機の貸与についてアンケートを取らせていただいた結果、153の町内会が貸与を希望されている状況が分かりました。その全てに貸与したい気持ちもありますが、なかなか一度というわけにはいかず、3年に分けて50機ずつ貸与を進めていく計画としています。この状況の中ではどうしても優先順位を付けざるを得ませんので、例えば小学校の通学路の距離が長いなど、要件を設けて優先順位を付けています。雨滝集落は、今年度の優先順位50番目までに入らなかったのではないかと思います。来年度以降も引き続き貸与していきたいと考えていますので、ご理解ください。

今回の33年ぶりの大雪を受け、本市としても小型除雪機の貸与について改めて見直しを行いました。今までは、定期点検等や日常の管理についても地元で責任を持っていただくと条件で貸与を行ってきましたが、3年に一度は定期的に市がしっかり点検を実施し、機械の寿命を延ばして長く使用していただけるよう取り組むこととしました。また、これまでは町内会同士の貸し借りをさせていただくことはできませんでしたが、案として、町内会同士の合意があり、なおかつ安全に運転できる方が操作されるなど一定のルールの下で、状況に応じて町内会同士の貸し借りをさせていただくことも必要ではないかと検討しているところです。

オペレーター不足の問題もあります。ボランティアでオペレーターをしてくださる方が

たくさん出てきてくださることが理想ですが、それとは別に、市が3年に一度の点検を行う時に合わせてお声かけし、地域の皆様を対象とした操作研修を実施するよう予定しているところです。

地域の皆様が要望されることに対して、なかなかすぐに実行できない部分もありますが、市として少しずつでも改善できることがないか検討を進めています。大茅地区では2m15cmの大雪が降ったとのことでした。例年そういう状況だと思います。本日ご指摘をいただきましたので、小型除雪機の馬力規格についても、もう少し状況を研究する必要があるかなと考えたところです。

(地元意見)

主要地方道鳥取国府岩美線の十王峠の整備について、現在は工区を分けて整備を進めているようです。所管が市ではないと思いますが、現在の進行状況や、開通時期が分かれば教えてください。

(総合支所産業建設課長)

8月頃に県に確認した時には、Ⅰ期とⅡ期の工事のうち、Ⅰ期の岩美町側工事が完了し、現在はⅡ期の国府町側の区間を実施されているようです。計画では、工期は平成31年度頃までと聞いていましたが、まだかなりの区間調査や用地買収が必要ですので、もっと長い期間がかかるだろうと思います。県からも、はっきりとした時期までは回答いただけませんでした。

(地元意見)

農林地の保全について要望します。

1点目は、農用地についてです。中山間地域等直接支払制度は、平成12年度からスタートし、5年を一期として今日まで進められています。この制度があるから、中山間地の農地が守られているのであり、制度がなくなれば荒廃地が出てくるのではないかと心配しています。国は今後もこの制度を継続してくれると思いますが、市も継続してほしいです。

2点目に、森林の保全についてです。最近は様々な所で自然災害が発生していますが、一番の問題として、流木によって災害が大きくなっている状況があります。特に国府町は殿ダムも控えており、森林をしっかりと守っていかなければいけないと思います。市から間伐対策としてかなりの助成を受けていますので、この制度も継続をお願いします。

また、間伐材の活用を目的として林道及び作業道の整備を進めていますが、整備が完了した部分は維持管理をしていかなければいけません。しかし、予算がないとの理由で原材料支給の要望が削られる例もあります。要望があるものについては十分対応できるよう、予算確保をお願いします。加えて、作業道には「基幹作業道」と「一般作業道」があります。基幹作業道は林道に準じたような規格になっていて、路盤に若干の砕石も敷いています。現物支給の対象を、林道だけではなく基幹作業道まで拡大してもらえれば、林地の崩壊を防止できるのではないかと思いますので、前向きな検討をお願いします。

6 市長あいさつ

長時間にわたり、熱心にいろいろなご質問、ご意見をいただいたことに、まずもって心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

最後に、中山間地域等直接支払制度が農地保全に非常に有効だから制度を継続するようにとのご意見をいただきました。また森林保全として、間伐や作業道の整備等についての支援措置の継続、充実についてもご要望をいただきました。この2つについては、今後もしっかり取り組んでいきたいと考えています。森林には、水源かん養や環境保全等、大切な役割があります。鳥取市は70%が森林ですので、森林資源を生かし保全に努めていくことは非常に大切だと考えています。

本日は、道路整備や雨滝の今後の活用、除雪など、様々なテーマについてご意見をいただきました。除雪機についても、20馬力が必要な地域もあるといったご意見もいただきました。本市としては、まずは10馬力の除雪機が全地区に行き渡ることを優先したいとの思いから現行の制度としていますが、積雪量が多いなどの地域の特性に応じた対応も必要であると感じたところです。次の雪のシーズンに備え、本市としてどうあるべきか、しっかり研究したいと思います。

長時間にわたり非常に熱心にご参加いただいたことに重ねて感謝申し上げ、お礼のご挨拶に代えさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。